

2014年度 関西実業団陸上競技連盟記録会

開催日:平成26年6月14日(土)

場所:尼崎市ベイコム陸上競技場

種目	名前	学年	記録	着順	備考
1500m	港 菜月	2年	4分43秒13	4 (16名中)	
3000m	尾崎 可南子	2年	10分45秒75	17 (23名中)	
5000m	渡部 貴江	1年	17分28秒99	4 (15名中)	

【山本コメント】

現状の走力の確認と、本大会に出場している関西の他大学と胸を合わせて競い合うことを目的に出場した。1500mと3000mが行われた日中の時間帯は暑かったが、5000mは日が傾きかけたまずまずのコンディションの中でのレースは行われた。

1500mには港が出場した。先頭集団でレースを進め、1000mまでは2番手の良いポジションにいたが、残り500mからややペースダウンした。今年走ったレースの中では最も良いタイムではあったが、目標としていた4分30秒台、自己記録(4.36.01)には届かなかった。3周目、4周目に力を発揮できるような力配分と、そこまで余裕を持って走れる体力、技術の向上を目指したい。調子は悪くないので、次週の日本学生個人選手権3000m障害にうまくつなげてほしい。

3000mには尾崎が出場した。1600m付近までは先頭集団の中で走れたが、その後大きくペースダウンしてしまった。練習は徐々に継続できるようになっているので、このまま継続して力をつけていけるよう、練習以外も含めた生活全般に注意を払って毎日を過ごしてほしい。

5000mには渡部が出場した。3800m付近までは先頭集団3名の中の2番手を走って健闘し、自己記録更新の可能性のあるペースであったが、以降にペースダウンし4着でゴール、自己記録にも約10秒届かなかった。本人にとって次のレースとなる西日本インカレで自己記録を更新できるよう、今後3週間での鍛錬と調整を期待したい。

他大学の学生は、他大学を意識した競り合いの走りはもちろんのこと、自チーム内での競争も熾烈な様子が見えがえた。一方、本学の部員は、レースの後半や最後に他大学との競争を意識したもうひと踏ん張りの走りが見えにくく、また人数が少ないためか自チーム内の競争心も少ないように感じた。今後、チーム全体として、駅伝をさらに強く意識した大会出場、練習、日々の生活になっていくよう期待したい。